

次号予告

特集 新しい義肢・装具

骨格義肢の展望.....	名古屋労災義肢センター	土屋 和 夫
骨格スプリント.....	養育院付属病院	荻 島 秀 男
小児の電動義肢の訓練.....	都立心障センター	古 川 宏
日本の生活様式に適合した義足.....	医歯大リハ科	細 田 多 穂
新しい義肢, 装具のパーツの紹介と評価.....	兵庫リハセンター	沢 村 誠 志
プラスチックの扱い方.....	都立補装具研	加倉井 周 一

講座 行動変容療法について (Ⅱ).....	国立特殊教育研	東 正
運動学シリーズV: 膝の運動学 (2).....	兵庫リハセンター	山 下 隆 昭

とびら 精神医療の中の OT.....	府立中宮病院	時 武 治 雄
---------------------	--------	---------

メディカルプログレス

腰椎椎管狭窄.....	帝京大整外	岩 倉 博 光
重症筋無力症.....	名大内科	真 野 行 生

Q & A 「脳卒中患者に対する運動許容量は……」.....	A・飯野耕三/Q・植橋政和
--------------------------------	---------------

編集後記

新年おめでとうございます。

3年振りに日本に戻り, あらためて既刊号に目を通してみた。発刊当初の内容と最近のものとを比べると, 理学療法士・作業療法士の進歩発展がよくわかる。

編集会議でも, はじめの頃は, 読者層のニーズの把握が困難で, 多分, かなりのバラツキがあるのではないかという推測のもとに, 理学療法士・作業療法士に最低限必要な基礎知識をまず, という感じで, 講座とか啓蒙的な内容にウエイトが置かれていたように思う。また執筆者も, 書いてくれそうな人を見つけてから, その人の書けるテーマで, という感がなきにしもあらずだったように思う。

しかし, 今はちがう。読者層は, 少なくとも既刊の本誌を読んでいる人 (あるいは

読むことのできる人) という前提に立つことができる。今さらながら “記録” ということの偉大さに驚いている。“記録されたものとして残す” ということは, それをもとにして, 修正するなり, 発展させるなりして, 次に, 何らかの積重ねができるということであり, この意味でも, 本誌の役割は大きいと思う。

執筆者も拡大されつつあり, 今では, どんなテーマに読者は興味を持つだろうか, ということからテーマを決め, テーマを決めてから執筆者を選ぶ, という通常の段取りが可能になってきたように思う。

新年号に「理学療法最近の進歩」という特集テーマが選ばれたということは, 何はともあれ, おめでたい。本誌をより充実させるために, 今年も頑張りましょう。

(福屋 靖子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院院長
五味 重 春
府中リハビリ学院院長
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順, 以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部
佐 藤 馨
神奈川リハセンター
鈴木 明 子
府中リハビリ学院
谷 岡 淳
自治医科大学
寺 山 久美子
都心障センター
福 屋 靖 子

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
大 橋 博
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
小 林 夏 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 剛
田 原 澄 彦
富 岡 詔 子
奈 良 勲
藤 沢 しげ子
藤 本 欽 也
前 田 守
松 本 妙 子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
横 山 巖
和 才 嘉 昭
(担当 細田・松橋)